

# 眼 ・ 視 覚

科目責任者 河 越 龍 方  
学年・学期 3 学年・1 学期

## I. 前 文

我々は見ることによって外界から多くの情報を取り入れている。朝起きて夜寝るまでの間実に多くの時間を見ることによって行動しており、見えるということが生活においていかに重要かということがわかるであろう。

どのような仕組みで我々が見えているのか、まずは解剖・生理を学習する。眼附属器に生じる疾患は多岐にわたる。網膜疾患、緑内障、角膜疾患、白内障、炎症性疾患など、各論については、疾患の機序から理解できるような講義を行っていく。

講義に先立ち、眼科学に関する自発的な事前学習は深い理解に必須であり、何かしらの成書を用いての学習を勧める。

## II. 担当教員

教授	河 越 龍 方	眼科学
学内教授	西 塚 弘 一	眼科学
学内准教授	忍 田 栄 紀	埼玉医療センター眼科
講 師	鈴 木 重 成	眼科学
講 師	西 村 智 治	埼玉医療センター眼科
学内講師	伊 藤 栄	眼科学
学内助教	高 橋 鉄 平	眼科学
学内助教	白 石 真	眼科学
学内助教	古藤野 慎	眼科学

## III. 一般学習目標

- ・視覚の仕組みを理解する。
- ・眼科特有の疾患の原因について系統的に理解する。
- ・診断に必要な機器の原理を理解する。
- ・眼と全身の関係について発生器所を関連付けて学ぶ。

## IV. 学修の到達目標

- 1) 眼科疾患の性状を知り、視覚を形態的ならびに機能的に理解し、その重要性を認識する。
- 2) 眼底検査の技術を習得して自ら診断や治療の理解に努める。
- 3) 積極的に勉学に励み、合わせて医師国家試験の合格を目指す。

## V. 授業計画及び方法 \* ( ) 内はアクティブラーニングの番号と種類

- (1: 反転授業の要素を含む授業 (知識習得の要素を教室外で済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態。)  
2: ディスカッション, デイバート 3: グループワーク 4: 実習, フィールドワーク 5: プレゼンテーション  
6: その他 空欄: 該当なし)

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担当者	アクティブ ラーニング
1	5	27	水	4	眼の解剖と生理・眼科検査	河 越 龍 方	1
2	5	27	水	5	白内障・眼科救急疾患	西 塚 弘 一	1

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担当者	アクティブ ラーニング
3	5	28	木	3	全身疾患に関与する眼疾患・ぶどう膜炎・眼腫瘍	鈴木重成	1
4	5	28	木	4	眼底疾患	古藤野慎	1
5	5	28	木	5	緑内障	白石真	1
6	5	29	金	1	小児眼科・斜視・神経眼科	忍田栄紀	1
7	5	29	金	2	角結膜疾患	伊藤栄	1
8	5	29	金	3	眼瞼・眼窩・涙道	高橋鉄平	1
9	5	29	金	4	網膜硝子体疾患	西村智治	1

#### VI. 評価基準（成績評価の方法・基準）

以下のとおり成績評価する。（ ）内は評価の割合。

定期試験（90%）、事前課題（10%）

なお、定期試験問題内の英語問題は「医学英語Ⅲ」の評価として集計される。

#### VII. 教科書・参考図書・AV資料

1) 教科書：教科書は指定しない。

標準眼科学：大野重昭編，医学書院，2001

現代の眼科学：所 敬編，金原出版，2009

Physiology of the eye：Moses 編，Mosby，1990

Ophthalmology：F.W.Newell 編，Mosby，1996

臨床眼科学：湖崎 克，山本 節編，南光堂，1987

眼科学：丸尾敏夫，他編，文光堂，2002

講義録 眼・視覚学：山本修一，大鹿哲郎編，MEDICAL VIEW，2006

#### VIII. 質問への対応方法

問い合わせ先：眼科学講座医局（臨床医学棟6階）月～金曜日 10：00～16：00

ただし、事前に秘書を通じてアポイントを取ること。

IX. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

\*◎：最も重点を置く DP ○：重点を置く DP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）	
<b>医師としてのプロフェッショナリズム</b> 幅広い教養、利他の精神、医師に求められる品格を身につけ、豊かな人間性を育み、他の医療者と協調して、多様な価値観を尊重する全人的な医療を実践できる	◎
<b>能動的学修能力</b> 医学知識・技能を主体的に学び、情報・科学技術を活用して、生涯にわたって自ら問題を発見し、解決することができる	◎
<b>地域医療の理解</b> 地域社会における医療の役割と、その中核を担う意味を理解できる	○
<b>国際性</b> 国際社会における医学・医療の動向や課題を理解し、課題解決に向けて行動することができる	
<b>リサーチマインド</b> 研究活動における積極的な創造・発信に挑み、医学・医療の進歩に貢献することができる	

X. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

課題について、間違いや誤解が多い点を随時解説します。

XI. 求められる事前学習、事後学習およびそれに必要な時間

事前学習（60分）：予習用の資料を配信するので、必ず予習すること。講義当日予習資料よりミニテストを行う。

事後学習（30分）：主要な眼疾患の診断に重要な自覚・他覚症状、検査法および検査所見を復習する。眼疾患に関しては、合併症の種類、病因の基づいた種々の薬物治療を記憶する。

XII. コアカリ記号・番号

PS-02-15-01～05 P-35, 表 2-4 P-82